

**令和4年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会
第1回会議 議事要旨**

【日 時】令和4年（2022年）6月28日（火）18時30分～20時00分

【場 所】豊中市役所第二庁舎4階第1会議室、ZoomによるWEB会議

【出席者】石川委員、岸本委員、高橋委員、吉村委員（オンライン）、田村委員、
古川委員（オンライン）、重長委員、濱田委員

【欠席者】なし

【事務局】菊池副市長、榎本都市経営部長

都市経営部経営計画課：森田、坂本、田中、島、上田、松田

【傍 聴】なし

【案 件】1. 会長の選出について

2. 「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（行政素案）及び第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（行政素案）についての諮問

3. まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会の役割について

4. 今年度のスケジュール について

5. 「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（行政素案）について

6. その他

【資 料】資料1 総合戦略委員会に係る規則等について

資料2 総合戦略委員会 委員名簿

資料3 まち・ひと・しごと創生総合戦略 委員会の役割について

資料4 令和4年度総合戦略委員会等のスケジュールについて

資料5 第4次豊中市総合計画後期基本計画（行政素案）

資料6 人口の実績と推計について

参考1 豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（本編）

【会議録】下記のとおり

■開会

■副市長挨拶（菊池副市長）

■資料の確認

■委員会について説明、成立要件の確認、会議の公開について確認

事務局

（資料1に基づき説明）

会議の成立要件は、規則第6条第2項のとおり、委員の過半数の出席が必要であります。本日は委員総数8名中、オンラインでの参加を含め8名全員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしております。また本日、傍聴者は0名です。

■委員紹介、事務局紹介

事務局

(資料2「総合戦略委員会 委員名簿」に基づき委員紹介、事務局紹介)

■「1. 会長の選出について」

(豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会規則第5条第2項の規定により、会長を委員の互選により決定)

会長・・・高橋会長

会長

この委員会は、豊中市のまち・ひと・しごとについての議論で、特に人口関係のこと、それから人口を増やしていくための豊中での仕事、まちづくり、子育てのことなど豊中市としていろいろな政策に取り組まれているなかで、委員のみなさまの視点で見ていただいて、いろいろとご意見を述べていただくことになっています。みなさまのお力添えでよいものとなるよう努力していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

それでは引き続きまして議事を進めてまいりたいと思ひます。

(豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会規則第5条第4項の規定により、会長職務代行者を会長指名により決定)

会長職務代行者・・・石川委員

■「2. 豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」(行政素案)及び第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(行政素案)についての諮問」

(菊池副市長から高橋会長に諮問書の手渡し)

■「3. まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会の役割について」

会長

案件3「まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会の役割について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料3「まち・ひと・しごと創生総合戦略 委員会の役割について」説明)

会長

まち・ひと・しごと創生総合戦略については、総合計画との関係で似かよっている点がありましたが、これで役割がはっきりして、すっきりしたのではないかと思います。ただいまのご説明について、質問・ご意見はございませんか。

委員

特になし

■「4. 今年度のスケジュールについて」

会長

では次に、案件4「今年度のスケジュールについて」、事務局からご説明をお願いします。

事務局

(資料4「令和4年度総合戦略委員会等のスケジュール」について説明)

会長

ただいまのご説明について、質問・ご意見はございませんか。

委員

特になし

■「5. 「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」(行政素案)について」

会長

次に案件5「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」(行政素案)について事務局からご説明をお願いします。

事務局

(資料5「第4次豊中市総合計画後期基本計画(行政素案)」について説明)

会長

人口ビジョンを策定する際の委員会で委員からの「40万人を目指さないということが豊中市にあるのか」とのご発言が強く印象に残っています。その委員がおっしゃられたとおり40万になりました。これは豊中市のみなさまをはじめ、市民のみなさまのいろいろな努力のおかげだろうと思います。ただいまのご説明について、質問・ご意見はございませんか。

委員

いろいろな施策の成果が40万人を超え、更に40万人以上を維持するのは当然なわけですが、今現在の40万人の維持については施策の成果というのは少し苦しく、種々いろいろな要因がありそうだと思います。これは逆に言うと、更に施策を充実したものにすればもっと頑張れるのではないかと期待を持たせる数字なのではないかと思いました。

会長

因果関係として事務局で把握されていることがありますでしょうか。

事務局

資料5の16ページの「人口移動の状況」を見ていただけたらと思います。

まず自然増減の推移をみますと、令和3年度は落ち込んでいるものの、それまで概ね3,500人前後の出生数を維持している一方、少子高齢化で死亡者数が少し伸びており、それによって自然減となってきました。

続いて社会増減、転出入の推移をみますと、豊中市としましては毎年転入超過となっており、他府県のみなさま、近隣市のみなさまから選んでいただいております。転入超過を維持できているかと思っております。昨年度、実施した転出入アンケートでは、豊中市を選んでいた方のご意見として、「交通利便性がいい」ことなどがあり、多かったです。これは、豊中市に住んでいる知人から勧められて」というのがありました。これは、豊中市に住んでいただいている方に一定満足いただいております。それが口コミで広がり、北摂地域のブランドイメージとして子育てがしやすいと認知いただいていることが、転入超過をこれまで維持できている要因として大きいだろうと分析しています。

会長

今のお話は、本当にそのとおりだと、みなさま納得するところかと思っております。

委員

今回は出生率中位、純移動率高位で推計したもので取り組んでいこうとお話があり、これに関してはしっかりとやっていただく推計としておさめていただければと思います。1点だけ、先ほど、出生率中位を平成28年から令和2年までの平均値で推計しているものを、最新データが出てきたら変えるのご説明でしたが、となると平成29年から令和3年を取るということでよろしいでしょうか。

事務局

そのとおりです。

委員

平成29年から令和3年をとる場合、先ほどの16ページのグラフで令和3年の出生数が下がっており、これがきいてこないかというのが気になります。今の推計では推計①で403,532人となっていますが、令和3年度のデータを使うことによって出生率が下がり、40万人を維持している推計値が下がってしまうのではないかと危惧があります。

令和3年度の出生数の減少はコロナの関係もあるのではないかと思います。平成29年から令和3年まで入れたデータをとった結果、平成28年から令和2年のデータをとるより下がってしまうことをどう解釈するかです。落ちたからしょうがないと考えるのか、それとも令和3年度はコロナの影響が色濃く出ているので、今までの直近では3,500人程度で推移していることから、そちらのデータを取るとの説明で出生率をさわらないとの決断もあるのではないのでしょうか。そのあたりはいかがでしょう。

事務局

おっしゃっていただいたように令和3年の出生数が下がっています。出生率については5年間の平均値をとっており、今示しています推計では出生率 1.49 で計算しています。国の合計特殊出生率について一昨年と昨年を見比べると、一昨年は 1.33、昨年は 1.30 で 0.03 下がっていますので、豊中市においても同様に昨年の合計特殊出生率 1.47 から下がるだろうと予想しています。実際に推計をしてみないとわかりませんが、他の推計を見ますと、出生率はそれほど大きく影響してくるものではないだろうと思われまので、おそらく今お示ししています 40 万人を超える推計値は変わらないだろうと考えています。

委員

出生率が下がると推計人口がどれくらい下がるのか、その幅が分からないのでなんとも言えないところはありますが、40 万人がひとつのキーワードになると考えると、先ほど因果関係の話もありましたように、政策的な人口ビジョンですので、逆に令和3年までのデータを使わなくてもよいのではないかと思います。直近データがあるのできっちり取ろうとの考えもよくわかりますし、それに対して否定するつもりはありませんが、コロナをどう見るかだと思います。今後コロナがどうなるか不確実な要素は非常に大きいですが、コロナ以前に戻ることを目指すのもビジョンとしてあり得る話ですので、そこはデータを見ていただいて、あまりにも落ちてしまって難しいようであれば、コロナの影響が色濃く出ているところは除いて推計することも考えられるのではないかと思います。

委員

今のお話にありましたように出生率はやはり重要だと思います。人口増加もしくは維持を流入が増えていくことに頼るのは、他のエリアはどうなのかとの議論にもつながると思いますので、原点は出生率がある程度維持されることだと思います。

数年前、他の委員会ですら似たような話になった際、他の委員の方が「子どもを産みたくない人もいますから」とお話をされたことがありました。当然そういうこともあるかと思いますが、豊中が産みやすいとか産むためのコストが他市と比べて有利に値するなども多々あるだろうと思いますし、中国でさえも人口減少の恐怖におののいているという話ですから世界中の問題だと思いますので、今下がっているとしても、方法論をもう少し議論するなり、施策を展開するなり、そのあたりの工夫を矢継ぎ早に考えていただけたらと思います。病院のいろいろな手当、医者の手当、あるいは病院間の IT を使った種々の情報共有化など、いろいろなことがあるかと思いますが、まだそこまでは踏み込んでいない気がしますので、今のうちにそれができれば今の人口は十分維持できるのではないかと思います。

会長

心地良いプレッシャーをかけていただきました。

委員

資料を見させていただき、豊中市はすごく頑張っておられると感じました。出生率 1.47 で、令和2年までは出生数も増えているということに驚いています。先ほどのなぜこのような状況にあるの

かとの話に通じますが、資料5の12ページの「前期基本計画の総括」をみますと、ほとんどの項目が市民の意識がかなり上昇しており、例えば「子育てがしやすい」について、何をもちょうそ感じてもらえるのかまで、もしわかっているのであれば教えていただきたいと思います。子育てのところで今回参加させていただいていますが、「教育・保育環境が充実している」についても、ロコミで何がいいと聞いているのか、施策なのか、環境なのか、そこがしっかり明確に見えてくると、そこに重点を置いてやるのが大事だと思います。どこまで検証されているか、その検証が人口をキーとする裏付けになってくると感じます。令和元年から令和3年でこれだけ満足度が高まっている理由がもしわかれば教えていただけたらと思います。

事務局

本市においては子育て・教育に積極的に投資をしているという点があります。例えば待機児童数はゼロにするなど子育てしやすい環境の充実を図っていることや、教育の分野においては、教育以外の部分のサポートにより教員が子どもに向き合えるような施策を展開するなど学校教育にも力を入れていることなどが一定評価されているのではないかと考えています。

「子育てがしやすい」については、子育てを引退された60代70代の方において「わからない」を選択された方が多くなっていましたので、第2期の総合戦略においても、実際に子育てをされている世代の方の回答を抜き出した結果を出すようにしています。

18歳未満のお子さんがいらっしゃる方で49歳までの方を抽出した集計では、「子育てがしやすい」に関して、68%程度の方がご満足いただけている結果となっています。また、「子育てしやすいまちだと思いますか」に対して「思う、どちらかといえばそう思う」を選んでいただいた方に、その理由として、例えば「出産前に子育てに関する知識を習得する機会が充実しているから」などのいくつかの選択肢のなかから選択いただいた結果をみますと、どれかが特化してというより全体的に選択いただいている状況で、豊中市の施策の中でみなさんどこかにフィットしてご満足いただけているのではないかと分析しています。

令和3年度調査のこれまでの調査と違う最も大きな点はコロナ禍での調査だったことがあります。ちょうど夏ぐらいにかけてみなさんが外出できない状況の中での調査でした。我々としてはかなり悪いほうに回答されるかと思っていましたが、むしろ逆に良い回答でした。先ほど説明しましたように、豊中市は子育て施策を充実させてきて他市と差異なく先端をいっていると思いますが、考えられるのは、コロナ禍で給付金などの支援策を各自治体が先へ先へと行っており、豊中市においても相談体制や外出できないところへの支援などかなり充実させていましたので、そういったこともプラスに働いた要素かと思っています。よって、令和3年度の結果を受けて次にどう出るのが非常に大事なところですので、そういった特異な点があったことを押さえた上で分析していかなければならないと思います。

会長

行政のこのような量的アンケートは一定のボリュームをとって信頼度の高いものだと思います。なかなかヒアリングというのもしづらいいところもあるかと思いますが、因果関係につながるものが見えてくると、議論や次の政策にもなるかと思っていますので、またお考えいただけたらと思います。

委員

豊中に着任したのは昨年で、北摂地域は初めてでしたが、それまでのイメージどおり住みやすいまち、非常に交通の便も良く人口流入が続いているというイメージどおりのまちだと思っています。実際に我々がご融資をするなかでも、賃貸マンションの竣工件数が周辺の市と比べても圧倒的に豊中市が多くなっており、住みよいまちということが、ここにも表れていると思います。

そのなかで、人口を維持するために出生率と純移動率を高めていく、維持していくということですが、ひとつ気になったのは17ページの過去5年の転入転出について、どこから来てどこへ出ていったかをみますと、箕面市に出ていく人が多いことです。これは箕面市で新駅の開発などがあつたことも影響していると考えますと、委員のお話にあつたようにまだまだ豊中市としてもできることがあるだろうと思います。

もう1点出生率に関して、子育てのしやすいまちということで、非常にいろいろな施策をされているだろうと思いますが、最近は女性の職場復帰、働きやすさも非常に求められています。私どものところでも育休を取った後に復帰してもらおう社員のほうが多いですが、どうしても配偶者との関係で辞めざるを得ないということもあつたりします。豊中市は大阪府下でも4番目の事業所数だと思いますので、働きやすさの維持のため、企業さんへの支援・フォロー、また何かそれに代わる施策などを打つこともできるのではないかと感じています。もし、このような女性の職場復帰、働きやすさなどに関わる施策がありましたら教えていただきたいと思います。

委員

先ほど委員からお話のあつた市民意識調査結果の数字が上がっていることにびっくりしています。最近、明石市が非常に頑張って出生率の数字をあげているので全国から注目されています。泉市長は、わかりやすく子どもの医療費を無償化にしたり、オムツ代を出したりなど、赤ちゃんを産もうと思わせる施策を進めた結果、ちゃんと結果が出ていることを誇りにされている一方、本当はこういうことは国がやるべきことであつて、こういうことで市町村が競っている場合ではないとおっしゃっています。非常にもっともだと思います。豊中でも、例えば、18歳になるまで病院にかかるのに1か月500円程度といった手厚い支援があり、そういうことも影響するだろうと思います。このような目先のお金のことは、まずは大きくて、それを理由に豊中を選ばれる方もいらっしゃると思います。しかし、本当はそれを吹田や箕面と競っている場合ではなくて、国全体が統一して施策をとり、そのなかで豊中がどうだということになるかだと思います。

そうなってくると教育のことなどがあるかと思います。後輩達がどこへ住むか考える時に話に出てくるのは学校のことで、進学実績や学校そのものの環境、給食、先生のことなどを聞いてきます。ですので、選んでいただける豊中になるには、わかりやすい経済面などの目先の施策と、もっと根本的な大事な教育面の充実など豊中らしい施策との両輪でやっていかなければならないだろうという気がしています。今のところ豊中市はうまくいっている状況だと住んでいて感じています。令和4年の数字がどう出てくるか、それによってまた次を考えないといけないだろうという気がします。

委員

前の委員会の時に質問、議論があつたかもしれませんが、あらためて教えていただきたい点があ

ります。14 ページの「人口推移と将来の人口推計」のグラフで、平成 17 年ぐらいから人口が増え
ており、この 15 年で 12,000 人の増加で、右肩上がりになっていますが、具体的にどういう施策を
されたのか、何か分析されていることがあれば教えていただきたいと思います。

また、18 ページに年少人口、老年人口、生産年齢人口とありますが、5 年後、10 年後の豊中市の
ことを考えると、やはり年少人口のほうに重きをおいているいろいろな施策をたてただけだと、豊
中市がどんどん発展していくのではないかと思います。

事務局

14 ページの平成 17 年以降人口が増加している点についてです。市としていろいろな施策を打っ
ており、それが少しずつ効いていっているというはあるかと思いますが、その中で、おそらく千
里ニュータウンのマンションの建替えを実施したことが大きいのではないかと考えています。それ
まで人口が減少しているなかで、この建替えを機にまた千里ニュータウン周辺での転入が増えてき
て、みなさんにご評価いただいている「子育てがしやすいまち」というのが浸透してきたことを期
に転入等が増えてきているのではないかと分析しています。

委員

今、北大阪急行の延伸もあり、その開発もこれからだと思いますので、そういった関係ではまだ
まだ伸びしろがあるかと思っています。

委員

16 ページの表を見ますと、昨年は別として、転入超過の年が隔年でデコボコになっているので
すが、隔年で転入が多いのは何か理由があるのでしょうか。

事務局

転入超過の値が大きい年には大規模マンションができていく傾向があります。大規模マンション
ができますと戸数が多く人口も大きく増えていると分析しています。

委員

最近、ある企業が「原則自宅を勤務地として、出社を出張扱いにする」制度を導入すると
のニュースがありました。こうなると転勤なども減ることになるかと思っています。それに追従する他の会社
もあるとニュースで見ました。これが定着すると、転入転出の活性化が減るのではないかと思いま
した。そういった点については何か分析や読みをされていますでしょうか。

事務局

昼夜間人口の比率をみますと、豊中はもともと昼間減って夜になったら戻る、いわゆるベットタ
ウンとして選ばれている都市だろうと思っています。豊中は住みやすさという点で選ばれているま
ちだと思っていますので、今後、テレワーク、自宅で仕事ができるような社会環境になってくれば、
むしろ更に豊中を選んでいただいて、豊中でテレワークの仕事もしていただけるようになるとよい
のではないかと考えています。大都市などは、逆に住みやすい都市へ人口が流れていくかもしれま

せんが、その点豊中はあまりそういった状況にはならないと考えています。

委員

少し遠くへ転勤になった場合でも、テレワークなどの形態が浸透して豊中市に居続けてもらえる環境があるとの分析をされているということでしょうか。

事務局

住みやすさという点では、そのとおりです。

委員

その住みやすさは、移動のしやすさという点もあるかと思います。会社に行きやすいから豊中市に住んでいるということも考えられるのではないのでしょうか。

事務局

確かにそれもあります。

委員

もっと自然の多いところへ移り住むという可能性もあるのではないのでしょうか。

会長

これから戦略的にやっていくことが必要かと思います。

緑が好きだとか自然に親しみたいという方ではなくて、教育環境の問題も含めてお子さんが育っていくことをもっと前面に押し出して、それを第一位に考えて、そういう方々に差し込んでいくことが必要になるかと思います。出生数を増やすことを考えると、やはり子育て世代、特にその世代の女性の方々に選んでいただけるようターゲティングしていくといった思いが必要になるかもしれません。

国が社会増減を競い合えと言っているなかで、私たちは具体的にどのように展開していくのか、今までとは違ったやり方が必要になっていると思います。一方で、前回から委員より、ゼロサムゲームをせず、しっかりと自然増につなげるようにしなければいけないとのご意見もあります。そういった世代のみなさまに来ていただくというように方向性をはっきりさせていくことも必要になってくるかもしれません。そうなってくるとやはり因果関係は知りたいところで、何を打つと反応していただけるか、委員からもご意見があったように、基礎的なもの、いわゆる短期的に考えなければいけないものと長期的に考えなければいけないもの、どのように手を打っていくのかが本当に必要になってきていると思います。本日の議論もそうですが、いい成績が出ると、いろいろと注文が付いてきて大変かもしれませんが、逆に励みになると聞いていただけたらと思います。

一巡しましたが、委員のみなさまから議論に触発されてもうひと言とありましたらお願いできればと思います。いかがでしょうか。

委員

会長のお話にもあったように因果関係をしっかりと分析することは重要で、精緻なアンケートも

とられて、転出入の理由をしっかりと探り、そこで要因分析を行うことは非常に重要だと思います。

ただ、コロナ後で要因が変わってきていることが注意すべき大きな点だと思います。コロナを経験してテレワークが常態化するなかで、「住む」という選択理由が今までとは変わってくるかと思っています。今までのトレンドとは違う視点が必要で、想像力を働かせて、何が効くのか仮説をたて、これが効いているのではないかという点についてアンケート調査を行い、実証的に分析していくことが重要かと思っています。

オンラインに頼れないもの、実感できるものを大切にする視点から、子どもたちがリアルに体験する学校、その学校教育が充実していることが選択の大きな要因になるだろうと思います。テレワークに関して、楽な反面、自宅にずっとこもってテレワークをするのはつらいといった話を聞きます。共働きで両方がテレワークの場合、一人はサードプレイスなどを利用してお互いに距離感をとっているといった話もよく聞きます。ですので、テレワークが進むから来てもらえるといったことには注意が必要で、例えば散歩ができる、息抜きができる場所がある、そういった快適な空間があることが居住選択の要因になるかもしれないと考え、豊中にはそういったリフレッシュできる場があるとうたうことが効いてくるようになるかもしれません。みなさんのなかでプレストをしていただいて、こんなことが効くのではないかといったことを調査してみると、もう少し細かく見えてくるかもしれません。今までどおりでは効かないこと、逆に今まで効かなかったものが効いてくることもあるかと思っています。効きそうなものを新しく見つけ出して調査をすると、そこからヒントが生まれ、おもしろい政策提言につながるのではないかと思います。

委員

子育てに関してですが、先ほど委員からのお話もありましたように子どもが安定するには保護者が絶対に安定しないといけません。保護者の生活が安定するように、コロナ禍でも保育所はずっとオープンだったので、保育所があったからみなさん働きにいったということがありました。

共働きも増え、シングルも増え、いろいろ家庭の形が変わってきているなかで、働き続けられる保育環境を提供することが大事だと思います。増えていく老年人口とうまくコラボしていけたら、とてもすてきなまちになると思います。子どもにとって高齢者と関わる機会はとても重要で、今、日常的に関われない子どもも増えてきていますので、高齢者とのマッチングができるとよいと思います。例えば急にあずかってもらいたい時にシルバーのみなさんが頑張る仕組みを市で充実させているといったことです。すでに取り組まれているかもしれませんが、そういったところに注力して高齢者も子どもも輝けて、働いている方も働きやすいと打ち出せたら、とても魅力的だと感じます。子どもの心身の健康を守るためには保護者の健康を守らなければいけませんので、その点にスポットをあてて、高齢者の育成にも力を注ぎ、高齢者も活躍する、そういったアイデアがあるとよいと思います。

会長

他によろしいでしょうか。

そうしましたら、委員のみなさまの意見を集約し答申にまとめていきたいと思っています。

■「6. その他」

会長

それでは、最後に案件6「その他」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

(連絡事項「今後の日程について」説明)

会長

これで本日の案件はすべて終了となります。

これをもちまして「第1回豊中市まち・ひと。しごと創生総合戦略委員会」を閉会いたします。